

## よそ者だから 言えることもある

東日本大震災

私たちに  
できること

衆院議員 田中康夫さん



たなかやすお 作家。新  
党日本代表。00〜06年、長野  
県知事。

16年前の阪神大震災ではバイクに乗って半年あまり、ボランティア活動を続けました。今回は福島県南相馬市を中心に支援活動を行っています。

のです。

自分が現地に出かけて何かをする余裕はないけれど、具体的に即効性のある支援にかかわりたい。そう考えるなら、実際に活動している非営利組織(NPO)やボランティア団体に支援金を送ることをお勧めしま

す。日本赤十字社などをはじめとする義援金自体を否定はしませんが、「公平・平等」な配分委員会を通じて被災者に届くのは、数カ月後になってしまうこともあるからです。

そうした一歩を踏み出すことで、今度は自分も参加する機会を得られたら、と考えるようになるかもしれません。自らが選んで踏み出すことが大事です。

家族を、住まいを失っても前を向いていかなくちや。そうした気力を持つには、悲しかったこと、今のつらい思いを吐き出さないとけない。その聞き役に

よそ者が相手だからこそ、言えることがあるんですよ。【聞き手・江畑佳明】

## つらい思い「聞き役」に

信頼できる組織かどうか「週末ボランティア」とい

う活動を2年近く続けていました。仮設住宅へ行って、お年寄りなどの話を聞かなくてはなりません。最初は警戒されて、少ししかドアを開けてもらえない。でも、しばらくたつと、部屋に招き入れてくれて、せきを切ったように話してくれる。